幼小連携に関する「遊び」と「教育」の問題-領域「健康」からの検討

柴田学園大学 短期大学部　保育科　　今　和香子

TEL 0172-36-6151　　FAX 0172-32-6153

顔写真等
(希望者のみ)

e-mail　w-kon@shibata.ac.jp

Web 等(該当するものがある方のみ)

キーワード	運動遊び、健康、幼小連携、子どもの文化と遊び、小学校体育、豊かなスポーツライフ

運動やスポーツが体の健康に効果をもたらすことはもちろん、心の健康とも密接に関連しているのは周知の事実であり、体力や運動能力を身に付けることは、豊かな人生を送るための基盤です。文部科学省（2017）は、「生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指す」ことを、体育の究極的な目標として示しています。

青森県は「短命県」とされ、児童生徒の体力低下が問題視されています。しかしながら、運動する子どもとそうでない子どもの二極化傾向は小学校入学時には既に出現しているとの報告もあります。心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するためには、各ライフステージにおける効果的な取り組と同時に、各ライフステージの滑らかな接続も不可欠です。例えば、幼稚園と小学校では、「遊び」ととらえていた活動を「教科」という概念に置き換えて学習していくことを支援することも連携の視点の一つです。幼稚園等では「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や小学校の「スタートカリキュラム」に関連します。

具体的な例としては、幼稚園指導要領「健康」のねらいである「多様な動きを経験する中で、体の動きを調整すること」と、小学校学習指導要領「体育」体つくり運動に取り上げられている「器械・器具を使っての運動遊び」「走・跳の運動遊び」「水遊び」「表現・リズム遊び」「ゲーム」のねらいの重なりを意識すること等があげられます。

運動遊び（水遊び）

青森県には現在、マスターズ陸上競技１６００ｍＲ等で次々と世界記録を樹立している 90 歳の男性ランナーたちがいます。さらなる目標が 95 歳での新記録樹立だそうです。

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現している例といえます。私自身もマスターズ陸上競技大会４００ｍに出場し、記録更新を試みているところです。